

体育が苦手な児童，生徒のための授業づくり

スポーツ庁主催
伝達講習

令和5年10月11日（水） 伊藤市立伊藤中学校 松村道

本日の内容

- ①学習指導要領を踏まえた授業の考え方
- ②陸上競技で授業を考える

*実技です

①学習指導要領を踏まえた授業の考え方

予測困難な時代の今を生きる子どもたち

新型コロナウイルス感染症
子供たちの65%は、今は存在していない職業に就く
10年~20年程度で、半数近くの仕事が自動化される
2045年には、人工知能が人類を超える

正解がない！
誰も経験がない
マニュアルがない（こうするとよい）

納得解 最適解 を見出す力をつけたい！

よりよい学校教育で、よりよい社会をつくる

学校と社会が、連携、協働しながら、今の新しい時代に求められる力を子どもたちに育む、「社会に関わられた教育課程」を目指す。

なにができるようになるか

- ①学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力や人間性
- ②生きて働く 知識・技能
- ③未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成

何を学ぶのか 指導内容

どのように学ぶのか 主体的・対話的で深い学び

学習指導要領では、指導内容が校種別ではない

令和の日本型学校教育とは

従来の日本型教育の良さ
☆一斉授業の効果的な指導法
多数の子どもを相手に、1人の教師が指導に当たるうえで、最適化された指導方法
☆人と人との関わり・思い出
学校が総合的に子どもの状況を把握し、指導に当たる。

孤立した学びに陥らない
協働的な学び
・多様な他者との協働
・異なる考えを受け

学びを還元して
成果を活かして

個を埋没させない
個別最適な学び
・指導の個別化
・学習の個性化

再認識された、学校の役割

なぜ、学校教育に体育は必要なのか

これを語る体育の先生でありたい

生涯にわたって
心身の健康を保持増進し
豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力

日本のスポーツ実施率
成人で52%
これって多いの？
残りの48%に目を向けたい！

「体育が楽しい」⇒「運動を続けたい」
「楽しい」体育とは？

「楽しい」体育の授業づくり

小学校学習指導要領解説 体育編 第2章 第2節
【第1学年及び第2学年】 2 内容 0水遊び
低学年の水遊びは、「水の中を移動する運動遊び」及び「もぐる・浮く運動遊び」で構成され、水につかって歩いたり走ったり、水にもぐったり浮いたりする 楽しさに触れることができる運動遊びである。

各領域の最初の数行に必ず書いてある。

表面的な楽しさではなく、その運動が有する魅力や特性に応じて、その楽しさや喜びを味わうこと。

教師の
教材研究・単元計画作成
の一番の肝！

3つの資質・能力をバランスよくつなげてデザインするのが授業づくり

例：マット運動(集団演技・演技発表会)

技能が違う仲間とも息を合わせて技を行う(知識及び技能)

体力・技能・性別等の違いを超えて運動を楽しむ調整の仕方を見つける(思考・判断・表現)

演技を見合う中で、それぞれの違いを生かす態度(共生の態度)

指導と評価の一体化＝授業づくりそのもの

①指導したことを評価する。②評価したら、指導につなげる。

序数	1	2	3	4	5	6	7	8	総合評価
知識・技能	B	B			A			A	A
思考・判断・表現			C	C		B			B
学びに向かう力・人間性等			B			B		A	A

単元の前の実態把握 診断的評価 子どもの実態で指導内容を検討 形成的評価 評価につながる 総括的評価

主体的・対話的で深い学び方をしたい

主体的な学びの姿とは

- ・興味関心を高めていく姿
- ・粘り強く自ら取り組んでいく姿
- ・課題を修正して新たな課題を設定する姿 等

そのために教師がすることは…

「今日やること」を子どもの意識や願いで決めること

本人の学習問題 + 子ども(友)の振り返り + 教師のねらい

主体的・対話的で深い学び方をしたい

対話的な学びの姿とは

- ・自己の考えを深めていく姿
- ・新たな考えに気づく姿
- ・より妥当なものをしている姿 等

そのために教師がすることは…

自分の考えを広げ、深める手立て
自分の考えが揺さぶられて再構成していく

自分の考え → 友の考え → 新しい自分の考え

主体的・対話的で深い学び方をしたい

深い学びの姿とは

- ・試行錯誤を重ねていく姿
- ・一つの知識や技能を、相互に関連付けて、自分の感覚を形成していく姿 等

そのために教師がすることは…

知識と知識を結び付けて、面として広げていく

できた! → 理屈もわかる → 別の場面で活用できる

教師：なんてできたの? どうやってやったの?

①陸上競技で実際に授業を考える

リレー
短距離走
ハードル走

陸上競技の特性や魅力は何だと思いますか

「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争する楽しさや喜びを味わうことのできる運動

陸上競技	走	跳	投
走の運動遊び	かけっこ リレー ハードル走	短距離走 リレー ハードル走	短距離走・リレー ハードル走
跳の運動遊び	幅跳び 高跳び	走り幅跳び 走り高跳び	走り幅跳び 走り高跳び
投の運動遊び			走り高跳び 走り高跳び 走り高跳び

「楽しい」体育の授業をつくりたい

陸上競技の特性や魅力に迫る教材例

- ①準備運動、主運動につながる運動
- ②陸上競技の楽しさや喜びを味わう運動
- ③陸上競技の動きの質を高める運動

①準備運動、主運動につながる運動

2人一組をつくりましょう。このペアで活動をお願いします。

- おしゃべりジョギング
- 鏡ストレッチ→点対称ストレッチ
- 長座ストレッチ(足上、外、内)
- 10秒ベースランニング
- グリコ→グリコ(走り幅跳びにつながる)
- ペーパーバトンパス(リレーにつながる)

3つの資質・能力をバランスよくつなげてデザインするのが授業づくり

例：マット運動(集団演技・演技発表会)

技能が違う仲間とも息を合わせて技を行う
(知識及び技能)

体力・技能・性別等の違いを超えて運動を楽しむ調整の仕方を見つける
(思考・判断・表現)

演技を見合う中で、それぞれの違いを生かす態度
(共生の態度)

指導と評価の一体化＝授業づくりそのもの

①指導したことを評価する。②評価したら、指導につなげる。

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	総合評価
知識・技能	B	B			A			A	A
思考・判断・表現			C	C		B			B
学習態度			B			B		A	A

単元の前の実態把握 診断的評価 | 子どもの実態で指導内容を検討 形成的評価 | 評価につながる 総括的評価

主体的・対話的で深い学び方をしたい

主体的な学びの姿とは

- ・興味関心を高めていく姿
- ・粘り強く自ら取り組んでいく姿
- ・課題を修正して新たな課題を設定する姿 等

そのために教師がすることは…

「今日やること」を子どもの意識や願いで決めること

本人の学習問題 + 子ども(友)の振り返り + 教師のねらい

主体的・対話的で深い学び方をしたい

対話的な学びの姿とは

- ・自己の考えを深めていく姿
- ・新たな考えに気づく姿
- ・より妥当なものをしている姿 等

そのために教師がすることは…

自分の考えを広げ、深める手立て
自分の考えが揺さぶられて再構成していく

自分の考え → 友の考え → 新しい自分の考え

主体的・対話的で深い学び方をしたい

深い学びの姿とは

- ・試行錯誤を重ねていく姿
- ・一つの知識や技能を、相互に関連付けて、自分の感覚を形成していく姿 等

そのために教師がすることは…

知識と知識を結び付けて、面として広げていく

できた! → 理屈もわかる → 別の場面で活用できる

教師：なんてできたの？ どうやってやったの？

①陸上競技で実際に授業を考える

リレー
短距離走
ハードル走

陸上競技の特性や魅力は何だと思いますか

「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争する楽しさや喜びを味わうことのできる運動

学級	小学校	中学校	高等学校	大学	社会人	職業
走・跳	かけっこ	短距離走	短距離走	短距離走	短距離走	短距離走
走	リレー	リレー	リレー	リレー	リレー	リレー
走の運動遊び	小型ハードル走	ハードル走	ハードル走	ハードル走	ハードル走	ハードル走
跳	幅跳び	走り幅跳び	走り幅跳び	走り幅跳び	走り幅跳び	走り幅跳び
跳の運動遊び	高跳び	走り高跳び	走り高跳び	走り高跳び	走り高跳び	走り高跳び
投						
投の運動遊び						

「楽しい」体育の授業をつくりたい

陸上競技の特性や魅力に迫る教材例

- ①準備運動、主運動につながる運動
- ②陸上競技の楽しさや喜びを味わう運動
- ③陸上競技の動きの質を高める運動

①準備運動、主運動につながる運動

2人一組をつくりましょう。
このペアで活動をします。

- おしゃべりジョギング
- 鏡ストレッチ→点対称ストレッチ
- 長座ストレッチ(足上、外、内)
- 10秒ペースランニング
- グリコ→グリコ(走り幅跳びにつながる)
- ペーパーバトンパス(リレーにつながる)

体育が苦手な児童、生徒のための授業づくり

スポーツ庁主催
伝達講習

令和5年10月11日(水) 伊原市立伊原中学校 佐村通

本日の内容

- ①学習指導要領を踏まえた授業の考え方
- ②陸上競技で授業を考える

*実技です

①学習指導要領を踏まえた授業の考え方

予測困難な時代の今を生きる子どもたち

新型コロナウイルス感染症
子供たちの65%は、今は存在していない職業に就く
10年~20年程度で、半数近くの仕事が自動化される
2045年には、人工知能が人類を超える

正解がない! 誰も経験がない
マニュアルがない(こうするとよい)

納得解 最適解 見出す力をつけたい!

よりよい学校教育で、よりよい社会をつくる

学校と社会が、連携、協働しながら、今の新しい時代に求められる力を子どもたちに育む、「社会に関わった教育課程」を目指す。

なにができるようになるか

- ①学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力や人間性
- ②生きて働く 知識・技能
- ③未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成

何を学ぶのか 指導内容 どのように学ぶのか 主体的・対話的で深い学び

学習指導要領では、指導内容が校種別ではない

小学校 中学校

4 4 4

中学校1年生でつまづいていたら、5,6年生に戻るといい!

令和の日本型学校教育とは

従来の日本型教育の良さ
女子校風の効果的な指導法
多数の子どもを相手に、1人の教師が指導に当たるうえで、最適化された指導方法
大人と人との関わり・思い出し、学校が協働的に子どもの状況を把握し、指導に当たる。

孤立した学びに陥らない
協働的な学び
・多様な他者との協働
・異なる考えを受け

学びを還元して
成果を活かして

個を埋没させない
個別最適な学び
・指導の個別化
・学習の個性化

再認識された、学校の役割

なぜ、学校教育に体育は必要なのか

これを語る体育の先生でありたい

生活にわたって
心身の健康を保持増進し
豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力

日本のスポーツ実施率
成人で52% これって多いの? 残りの48%に目を向けたい!

「体育が楽しい」⇒「運動を続けたい」
「楽しい」体育とは?

「楽しい」体育の授業づくり

小学校学習指導要領解説 体育編 第2章 第2節
【第1学年及び第2学年】 2 内容 D水遊び
低学年の水遊びは、「水の中を移動する運動遊び」及び「もぐる・浮く運動遊び」で構成され、水につかって歩いたり走ったり、水にもぐったり浮いたりする 楽しさに触れることができる運動遊びである。

各領域の最初の取組に必ず書いてある。

表面的な楽しさではなく、その運動が有する魅力や特性に応じて、その楽しさや喜びを味わうこと。

教師の
教材研究・単元計画作成
の一番の肝!

②陸上競技の楽しさや喜びを味わう運動

陸上競技は結果やタイムや順位が数値で示され、記録の向上や達成を瞬時に実感できる。一方でそれが生徒の意欲を衰退させ、自信を失わせることもある。この教材では、効率よく走る動きを身につけたり、心地よく走る感覚を味わうことで、走る楽しさを実感出来るようにすることが大切である。

○スピードアップ走

☆意識する技能ポイント

- ・弾みながら走る
- ・後ろの膝が前の膝を早く追い抜く
- ・膝を高く上げる

③陸上競技の動きの質を高める運動 ハードル走で考える

陸上競技は発達の段階に沿って動きの質を高めていきたい。しかし、ハードルの高さや台数、インターバルの距離などは、生徒の発達特性によって異なる。まずは条件や素材を易しくして基本となる動きを身につけたい。その後、条件を難しくしていく。「○○の動きを意識したら、記録が高まった」など、動きの質の高まりを実感できるようにしたい。

○シンクロハードル

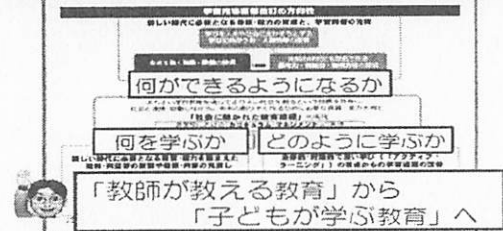
☆意識する技能ポイント

- ・着地時に走る姿勢になる
→7の姿勢、2人でダブル7
- ・着地時に減速しない

「楽しい」体育の授業づくりのポイント

- ◎タイムや記録だけにこだわるのではなく
自分の動作に着目して運動できる工夫
- ◎自分や仲間の記録の伸びに着目して運動できる工夫

まとめ



まとめ

教師の役割



○○が「わかる・できる」
ようにする！



○○が「わかる・できる」
ようになりたい
と思わせる！

まとめ

よりよい授業にむけて

上手になるから
好きになる

まとめ

よりよい授業にむけて

入口はやさしく
出口は奥深く

まとめ

よりよい授業にむけて

シンプル
だけど
奥深い

ありがとうございました

